

とっとり花回廊と大根島の由志園探訪

右城 猛

まえがき

大型連休の行き先が決まらずにいたが、直前になって「とっとり花回廊と大根島の由志園」に決めた。妻によると、この時期のバスツアーでは、最も人気が高い日帰りコースだそうである。

本当は、ホテルに一泊くらいしたいと思ってインターネットで調べてみたが、さすがに大型連休とあって3日と4日はどこも満室であった。前日になると、1室くらいはキャンセルが出るのではと期待して、直接ホテルに電話をかけて見たが駄目であった。

5月3日の朝6時半に、妻の運転で自宅を出発した。途中、豊浜SAで朝食を兼ねたトイレ休憩をとったときに、財布を持っていないことに気がついた。出際に玄関先に落としたことも考えられたので、嫁いでいる娘の和恵に電話をかけて家の中を調べてもらったところ、テーブルの上に置き忘れていたことが分かった。妻曰く。老化現象の現れ。ショックである。

大型連休の真ん中なので高速道路の渋滞が心配されたが、比較的スムーズに走ることができた。中国道の落合JCTから米子道に入ってすぐに3キロメートルの渋滞に遭遇しただけであった。

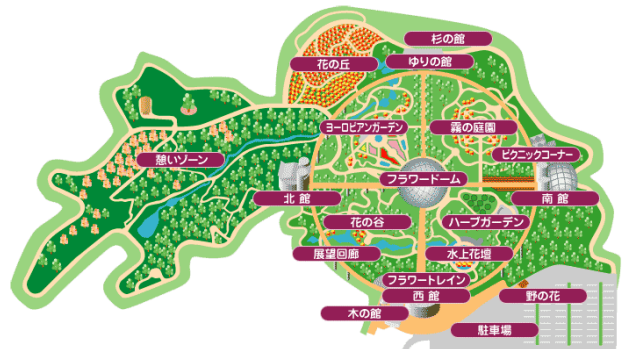
米子道の溝口ICを降りてから約10分で「とっとり花回廊」に着いた。高知からの所要時間は4時間弱であった。

とっとり花回廊

正式名称は、「鳥取県立フラワーパークとっとり花回廊」。園内の総面積は50ha。日本最大級のフラワーパークである。

園内の中央には、フラワードームと呼ばれる直径50mの円形ガラスドームがある。フラワードームを中心にして、その周囲に一周1kmの屋根付展望回廊があり、回廊を一周まわると東西南北各館のほか、霧の庭園、「ヨーロッパアンガーデン」、

「水上花壇」、「ハーブガーデン」などを眺めることができるような設計になっている。



とっとり花回廊の園内配置図



入園ゲートがある西館から入ったところ。背後に見える円形のドームがフラワードーム。いろいろな種類のチューリップがあり、とても綺麗。



屋根がついて全天候型となっている展望回廊



花の丘に咲いているポピー。背後の山が大山。豊浜 SA でもらった NEXCO 西日本高速道路ガイドブック中国四国地域版の表紙の写真が「ポピー畑と大山」であった。



園内にはフラワートレインがゆっくりと走っている。乗車料は 300 円。私達は歩くことをモットーとしているので利用しなかったが、これに乗れば園内を展望しながら 1 周できる。



旅の記念に大山を背景にしてツーショット

園内では青年がストリートパフォーマンス(大道芸)をしており、大勢の観衆が集まっていた。パフォーマンスの種類は玉や棍棒などをアクロバ

ティックに操るジャグリングと呼ばれる曲芸。使用する道具にはいろいろあるようであるが、青年が披露した芸はカスケード、ディアボロ、トーチの 3 種類。

カスケードとは、奇数のボールをお手玉のように操る芸。最大 7 つのボールを操って見せてくれた。ディアボロは、お椀を 2 個つなげたようなコマを、2 本のハンドスティックに通した糸でまわすことにより安定させて操る技。

トーチは、クラブの先に火が点くようになった「たいまつ」。4 本のトーチを操って見せてくれた。最後は口に含んだガソリンにトーチで引火させ、口から火を噴いて観衆を驚かせた。

芸も一流であったが、観衆を引きつける話術は見事であった。この話術を身に付けることができれば、仕事にいろいろと役立つに違いないと思った。



カスケード



最後に口から火を噴いて観客を驚かせる



展望回廊から眺めた「霧の庭園」と「フラワードーム」。公園の中央から、霧状の噴水を吹き出すようになっているので霧の庭園と呼ぶ。



水上花壇。手前がフラワートレインの発着駅になっている。座っている人達はフラワートレインに乗るのを待っている。



フラワードームと南館(ジャングルドーム)を結ぶ通路。通路の両脇には緑化ブロック積み擁壁が施工され、芝桜が植えられている。



フラワートレインが一周して帰ってきた

昼食はピクニックコーナーで、弁当を買って食べた。杉の木で作られた屋根の下に約 300 席の木のテーブルとベンチが据えられている。ここでは地ビール「大山Gビール」も販売していた。紙カップ 1 杯が 500 円。安くはないが美味しい。



南館(ジャングルドーム)は、熱帯・亜熱帯の植物が生い茂るタマゴ型のガラス温室。室内の 1 階と 2 階は緩やかなスロープで結ばれている。ブラジルや熱帯アジア原産の植物を觀賞できる。

ところで、上の写真。花の名前をメモするのを忘れていた。名前は不明。

江島大橋

日本庭園由志園があるのは、島根県の東部に位置する中海に浮かぶ大根島。大根島のすぐ東側には江島がある。江島や松江市街側からは干拓用護岸道路で結ばれている。米子方面からだ境港から江島を通って大根島に入らなければならない。

以前には江島と境港を結ぶ道路は、中海・宍道湖の淡水化のために作られた中浦水門橋だけしかなく、跳ね橋のため船が通るたびに通行止めになっていたようである。また、総重量 14 トン以上の車の通行ができなかったため境港から大根

島にボタンを見に出かける観光客は、バスだけ通過し乗員は歩いて渡らなければならなかったようである。

このような不便を解消するため、境港と江島の間に架けられたのが江島大橋。1997年度に着工し、総事業費 228 億円をかけて 2004 年に完成した。

橋長は 1446m で橋梁型式は、プレストレストコンクリートラーメン構造。PC ラーメン構造の橋としては、浜名湖の浜名大橋を抜いて東洋一、世界でも三番目の長さを誇っている。



由志園の位置図



江島と境港を結ぶ江島大橋。松江市の HP による。



境港側から江島大橋を渡る。道路の案内標識には、出雲 57km, 松江 24km, 大根島 3km と書かれている。

日本庭園・由志園

日本庭園由志園は、牡蠣の養殖、赤貝や鰻の卸商で成功した門脇榮が 8 年の歳月をかけて建設し、昭和 60 年に開園したもの。

「榮の父の由蔵が夢見て志した庭園」ということで、「由志園(ゆうしえん)」と名付けられたようである。

由志園は、榮の娘の門脇恵美子さんが社長を務める有限会社日本庭園 由志園によって運営されており、年間 30 万人の来園者を集めている。



日本庭園由志園の入り口



ツツジが綺麗な日本庭園





牡丹の館の「藁ぼうしを被った牡丹」。日本庭園の中にある「牡丹の館」では、毎日鉢の植え替えを行い、温度、湿度の調整を行うことで一年中大輪の牡丹の花を観賞できるようにしている。「牡丹の館」には感動させられた。素晴らしい。



4月中旬から5月下旬にかけて、由志園では250種、2万本の牡丹の花が咲く。



大根島は年間180万本の牡丹を栽培する日本一産地。日本国内だけでなく海外にも出荷されている。日本人の品種改良の技術レベルは世界一に違いない。



庭園内には藤棚もある。藤の花も見頃。



見事な大輪。



どちらが綺麗でしょう。



牡丹の土産物売り場。

牡丹には一鉢が千円のものから一万円を超えるものまである。牡丹の年齢で値段が決まるようである。年数が経っているものほど茎の数が多く、咲く花の数も多い。

ランに比べると値段が安い。手入れもランよりは簡単で、素人の私でも大輪を咲かせることができそうである。思い切って一鉢8千円の牡丹を購入した。



中海を模した池泉の水面に、朱色の欄干のある橋が映っている。静寂な風景に心が癒される。



竜溪滝(りゅうけいだき)



奥出雲の溪谷。シャクナゲの花が綺麗。



燃えるような深紅色に染まった霧島ツツジ



大根島の岸边からの風景を模したとされる「枯山水庭」。黒松は「新田松」、島石は湖面に顔を出す岩肌を表現している。



売店の前の庭で、松江市石橋一丁目の鬻夢の会の皆様による鬻(どう)の演奏があった。鬻とは桐の筒に牛皮を張って作った大太鼓のこと。

あとがき

妻は、花回廊は3度目だったようであるが、私は花回廊も由志園も初めての訪問であった。2箇所とも予想していたよりはるかに素晴らしいというのが素直な感想である。花のことを知り尽く

した経験豊富な専門家集団が、愛情を込めて育てているからこそ人々を感動させ、多くの観光客を呼ぶことができるのだろう。高知県では今年の3月1日から「花・人・土佐であい博」を開催しているが、花に限っていえば、とても歯が立たない。

由志園を15時30分に出て帰路に就いた。由志園から米子まで約25km。米子ICから南国ICまでは270km。由志園から自宅まではざっと300km。私は免許証も入れた財布を家に忘れていたため、往路、帰路すべてを妻が運転した。

妻は、途中で蒜山高原SAに寄り、ジャージ牛乳を飲み、牛乳で作られたケーキを食べるのを楽しみにしていたようであるが、サービスエリアは駐車場が満杯で、進入路まで車がはみ出して並んでいる有様。中に入るといつ出られるのかわからないのでパスした。

ガソリンを補給するために岡山道の高梁SAに入って休憩していると、偶然にも知人の夫妻に会った。2泊3日の山陰の旅を終えて帰る途中とのことで、萩と出雲のサンピアに宿泊したとのこと。早くから計画を立てていたのだろう。

高梁SAの給油スタンドにはENEOSが入っていた。ガソリンの価格は、1リットルが161円。高知市内の行きつけのENEOSより7円も高いので、給油は10リットルだけにした。

自宅に帰り着いたのは20時。休憩も含めて所要時間は4時間半であった。運転し通しであった妻はさすがに疲労でグッタリしていた。

来年こそは早めに計画し、ホテルも予約しておこうと反省した。そういえば、昨年も同じようなことを考えていたような気がする。

5月4日、朝食を済ませてこの旅行記を書いていると、宅配便「黒猫ヤマト」の車が家の前に止まった。昨日、由志園で注文した牡丹の鉢植えが、早速、大きな段ボール箱に入れられて届いたのだ。

茎の高さは70cm。1つの株から11本の茎が出て、9個のつぼみが付いている。立派である。きっと見事な大輪を咲かせるに違いない。見頃はいつだろうか。これから毎日が楽しみである。



由志園で購入した牡丹の鉢植え

【2008年5月4日13時】

立てば芍薬、・・・

「立てば芍薬（しゃくやく）、座れば牡丹（ぼたん）、歩く姿は百合（ゆり）の花」ということばがある。美しい女性をたとえる表現である。いずれも美しい花ではあるが、なぜ芍薬、牡丹、百合が選ばれたのかは分からない。ただ、芍薬と牡丹はどちらも牡丹科で、花は似ている。なお、この三つの花はリレーするように順番に咲く。牡丹は4月末から5月の初め、芍薬が5月中旬から6月末、そして百合が6月から8月。座っている美人が立ち上がって歩き出すという仕掛けである。

また、漢方では三つとも根の部分が生薬として使われる。特に、芍薬と牡丹は婦人科系の病気に効能があり、「立ったまま長くおしゃべりできる女性には芍薬を、すぐに座りたがる女性には牡丹を配合するとよい」という意味で、「立てば芍薬、座れば牡丹」の表現があるそうだ。

ところで、昔「立てばパチンコ、座ればマージャン、歩く姿は馬券買い」というパロディーがあった。ギャンブル好きの形容だが、パチンコを立ててしていたということを知らない世代には、このおもしろさが分かるまい。

武庫川女子大言語文化研究所長・佐竹秀雄
(2006年05月02日 読売新聞)